

# 翼の王国

ANAグループ機内誌 Inflight Magazine of ANA Group

特集 **South Africa**  
をさがせ!

March 2006 No.441

ご自由に  
お持ち帰りください

機内サービスのご案内  
音楽・ビデオプログラム  
航路図

3



Good Times Fly

ANA

A STAR ALLIANCE MEMBER

# 日本の人工林

日本には現在、約2,500万ヘクタールの森林があり、そのうち約1,030万ヘクタールがスギ・ヒノキを主とする人工林です。これらの人工林は、地植え、植栽、下刈り、蔓切り・除伐、間伐などの作業を行うことによって私たちの先祖が作り上げてきたものです。

日本の人工林の齢級別面積（下図）を見ると、約40年生の面積が最も多く、通常の主伐時期である50年生を越える人工林は少なくなっています。また、特に植栽木の成長が旺盛で、人の手入れが必要な40年生以下の人工林の面積は、約660万ヘクタールあります。樹木は自然に育つものだから、人が植栽した樹木でもそのまま放置すれば、自然に育っていくのではないかという考え方もあります。しかし、日本の人工林で主として植栽されているスギ・ヒノキは耐陰性が強く、かなり陰になっても枯れずに育つ性質があります。ですから、間伐をせずにそのまま放置しておく、林の中に太陽光が届かず、昼間でも暗く、下層植生も全くない不健全な林になってしまいます（写真左下）。不健全な林では、一本一本の植栽木に少ししか太陽光があたらず、もやしのようにひょろひょろとした木しか育ちません。また、下層植生が全くないことで、少しの雨でも地面が浸食され、土が流れ出します。その結果、集中豪雨の際に土砂崩れが起こったり、降った雨が地面にしみこまず、すぐに流出することによって、川の水水位が急増、急減を繰り返すようになったりします。一方、間伐が適切に行われた人工林では、林の中に太陽光が届いて明るく、下層植生も豊かな林になります（写真右上）。間伐が適切に行われれば、人工林も天然林と同様に健全な林になるのです。

しかし現在、日本の年間の間伐面積はわずかで、多くの人工林は間伐が行われないまま放置されています。これらのことから、今間伐が必要であり、間伐がいかに重要かということがよくわかります。

\*京都大学フィールド科学教育研究センター 森林資源管理理学研究室 高橋絵里奈さんの講演資料より抜粋させていただきました。

京都大学フィールド科学教育研究センター

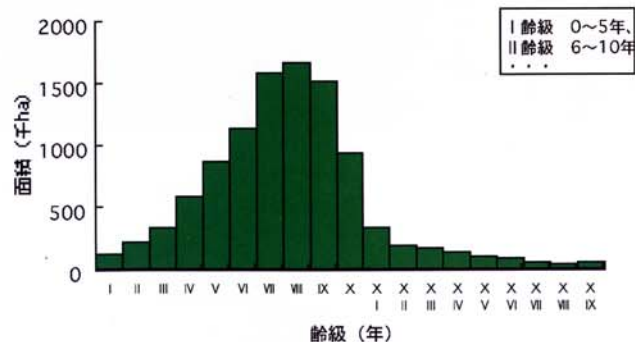
同センターは「森里海連環学（これまで個別に研究されてきた森・川・里・海のつながりの重要性に着目し、つながりを科学の目で見直す学問）」の創生を目的として平成15年4月に設立され、精力的に活動を行っている新しい組織です。

ANAでは、環境貢献活動の一環として、地域の皆様方のご協力のもと就航空港周辺における植林育林活動への取り組みを進めてきました。これまで各方面からご指導ご協力をいただいております。特に京都大学フィールド科学教育研究センターからは植林育林活動の場における「青空塾」の企画開催、講師派遣などをはじめとして多岐にわたってご指導ご協力をいただいております。

お問い合わせ・ご質問は  
環境・社会貢献部  
kanky@ana.co.jp まで



☆日本には約1,030万ヘクタールの人工林があります！



人工林の齢級別面積（平成13年）

森林林業白書（平成16年度）資料より作成